

医療的ケア児と作業療法

特集にあたって

2019年（平成31年）2月、体重わずか268gで産まれた男の赤ちゃんが退院したという報道があった。男の子としては世界一小さい赤ちゃんとクローズアップされたが、順調に成長していることは、私たち医療職にとって心より嬉しいニュースである。

このように、日々医学が進み、救われる生命が増える一方で、NICUへの長期入院や、退院後医療的ケアが日常的に必要な子どもの数も多くなっている。厚生労働省によると、2016年度（平成28年度）には医療的ケア児の数は1万8,000人を超えている。現状では、育つ地域により得られる支援はさまざまで多岐にわたり、各分野でのチャレンジが行われている。

今回、医療的ケア児・者のライフステージを通じ、医療・福祉・教育・行政の分野でそれぞれに必要な時期に必要な支援をされている方々よりご寄稿いただいた。本特集を通して多様な意見・課題を、読者の皆様と共に見いだしていければと思う。（高田英津子）

企画担当

高田英津子（合同会社療育いろは、代表・OT）

江藤文夫（国立障害者リハビリテーションセンター、顧問・医師）

西出康晴（倉敷中央病院、OT）